

# 第10講座 古文

1 次の古文と現代語訳を読んで、あとの問いに答えなさい。

〔古文〕

亀山殿の御池に、大井川の水をまかせられんとて、大井の土民に仰せて、水車を造らせられけり。多くの銭を給ひて、数日に営み出だして、掛けたりけるに、大方廻らざりければ、とかく直しけれども、終に廻らで、徒らに立てりけり。さて、宇治の里人を召して、こしらへさせられければ、やすらかにゆひて参らせたりけるが、思ふやうに廻りて、水を汲み入るる事、めでたかりけり。

万にその道を知れる者は、やんごとなきものなり。

〔兼好法師『徒然草』〕

〔現代語訳〕

〔後嵯峨上皇が〕亀山離宮の御池に、大井川の水をお引きになろうとして、大井の土地の者にお言いつけになつて、水車を造らせなされた。(上皇は)多くのお金をお与えになつて、(土地の者は)数日かかって造り上げて、取りつけたのだが、いっこうにまわらなかつたので、いろいろ直してみたが、結局まわらなくて、立っていたそうだ。そこで、(上皇は、水車の名所である)宇治の里の者をお呼びになつて、こしらえさせたところ、簡単に組み立ててさし上げたが、(今度は)思いどおりにまわり、水をくみ入れることは、みごとだったそうだ。

何事につけてもその道に通じている者は、尊いものである。

問一 — 線①「大方廻らざりければ」とありますが、何が廻らないのですか。古文中から書き抜きなさい。

問二

にあてはまる、— 線②「徒らに」の現代語訳として最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア がんばりようそうに
- イ 何の役にもたたないで
- ウ いたずらをされたままで
- エ 奇妙なかつこうで

問三

— 線③・④を現代かなづかいに直して、すべてひらがなで書きなさい。

③

④

問四

— 線⑤「その道を知れる者」にあたる人物を古文中から書き抜きなさい。

問五

筆者の感想が書かれているのはどの部分ですか。古文中から一文で探し、その初めの五字を書き抜きなさい。


問六

この文章で筆者が最も述べたかったことは何ですか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 亀山離宮の美しさ
- イ 宇治の里の者の器用さ
- ウ 専門家の尊さ
- エ 水車造りの苦勞



練習問題

1 次の古文と現代語訳を読んで、あとの問いに答えなさい。

〔古文〕

田真、田広、田慶、この三人は兄弟なり。親に後れてのち、親の財宝を三つに分けて取れるが、庭前に紫荊樹\*1とて、枝葉栄え、花も咲き乱れたる木一本あり。これを①三つに分けて取るべしとて、夜もすがら三人僉議せんぎしけるが、夜のすでに明けければ、木を切らんとて、木のもとへ到りければ、昨日まで栄えたる木が、にはかに枯れたり。田真これを見て「草木心ありて切り分たわかんと言へるを聞いて枯れたり。まことに人としてこれを③わきまへざるべしや」とて、分たずして置きたればまた再びもとのごとく栄えたるとなり。

〔御伽草子〕

〔現代語訳〕

田真、田広、田慶、この三人は兄弟である。親の死後、その財宝を三つに分けて取ったが、庭前に紫荊樹という名の、枝葉がよく茂り、花も咲き乱れた木が一本あった。これをも三つに分け合おうとして、夜どおし三人で相談したが、夜がすでに明けたので、木を切ろうとして、木のもとへ行くと、昨日まで青々と茂っていた木が、急に枯れてしまった。田真はこれを見て、「草木にも心があって切り分けようと言ったのを聞いて枯れたのだ。まことに人としてこのことを」と言つて、分けな

\*1 紫荊樹＝マメ科の落葉低木。ハナズオウのこと。

問一 — 線①「これ」は何を指していますか。古文中から三字で書き抜きなさい。


問二 — 線②「夜もすがら三人僉議しける」とありますが、三人は何について相談したのですか。「〜について」につながるように、十字以上十五字以内で書きなさい。


について

問三 — 線③「わきまへざるべしや」の現代語訳として最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア わきまえないかもしれない
- イ わきまえたほうがよいだろうか
- ウ わきまえないでよいだろうか
- エ わきまえないだろう

問四 田真、田広、田慶の三人が、木を切るのをやめた理由として最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 親がせっかく残してくれた木を切り分けるのは、親不孝だとさ
- イ 一本の木を三人でまったく同じに分けるのは不可能だとわかつたから。
- ウ 木が枯れたのを見て、木を切り分けるのは心ないことだと気づいたから。
- エ 木が枯れてしまったので、今さら切り分けてもしかたがないと思つたから。

--

2 次の古文と現代語訳を読んで、あとの問いに答えなさい。

〔古文〕

きさらぎのほどより、よろづみな、冬のころつきて、空のいろうららかにけしきだちて、四方山もかすみこめたるよそほひ、ことに、あけほのけしき、たとふべき物もなく、あはれむべし。いにしへの人、春は曙といひけんも、うべなるかな。日の光やぶしわかねば、かずならぬ垣根の内も、**A**にかはりてかがやきいで、草木生ひて、みな、顔色を生じ、花まちがほになごやかなるけはひうれし。日かげも、やうやくのどかになりもてゆけば、人のわざも、ふるとしよりいとまあきありて、いそがはしからず。

(貝原益軒 『益軒十訓』)

〔現代語訳〕

二月のころから、すべてのものに、冬の様子がなくなり、空の色にもうらかな様子が現れ、四方の山もかすみがちこめたありさまで、特に、あけほの景色が、**B**、趣がある。昔の人が春はあけほの(がいい)と言ったのももつともだ。日の光がどんなに草深いやぶでもへだてなく照らすから、粗末な家の垣根の中も、**A**に代わって輝き始め、草木もはえて、みな、生き生きとして、(人々も)花が咲くのを待つてなごやかな様子になるのはうれしいものだ。日の光も、しだいにのどかになってゆくので、人の営みも、旧年の年の暮れよりもひまがあつて、忙しくなくなる。

問二 線②「あけほの」とは、一日のうちのいつごろのことですか。

最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 夜明け
- イ 昼さがり
- ウ 夕暮れ
- エ 夜ふけ

\_\_\_\_\_

問三 **B**にあてはまる、線③「たとふべき物もなく」の現代語

訳として最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア たとえて言えば
- イ はなやかで
- ウ たとえようもなく
- エ 珍しく

\_\_\_\_\_

問四 **A**にあてはまる季節名を漢字一字で書きなさい。

\_\_\_\_\_

問五 線④「やうやく」を現代かなづかいに直して書きなさい。

\_\_\_\_\_

問六 線⑤「いそがはしからず」の主語を古文中から書き抜きなさい。

\_\_\_\_\_

問七 この文章の主題として最も適当なものを次のうちから選び、記号

で答えなさい。

- ア 新しい季節の到来の喜び
- イ 自然と人間とのふれ合い
- ウ 自然の奥深さ
- エ 古い時代へのあこがれ

\_\_\_\_\_

問一 線①「よろづみな、冬のころつきて」とありますが、人々の

生活の変化について述べている部分を古文中から二十九字で探し、その初めと終わりの四字を書き抜きなさい。

\_\_\_\_\_